

《一》次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のある問題は、句読点も一字に数えます。)

成田空港に降り立ち、素っ気ない空間を入国審査所に向かって歩き始める時、きまって感じることもある。空間は面々がなく無機質だが、なんと素晴らしく掃除の行き届いた場所だろうか。床のタイルはどれもピカピカで、床の上で転がり回ってもさして服は汚れないのではないかと思うほど。カーペットを敷きつめた床も清潔だ。仮にシミがあっても、それを除去しようと最善の努力をはらった痕跡がある。おそらく掃除をする人は、仕事の終了時間が来ても、モップや掃除機をささと片付けたりしないで、切りのいいところまで仕事をやりおかせて帰るに違いない。この丁寧さが、他国から帰ってくると切実に感じられる。空港を出てクルマで高速道路を走りはじめても①この感覚は持続する。田園風景を切り裂いて進む景観に高揚感はないが、路面は鏡のように滑らかで、クルマのエンジン音も極めて静かだ。道路に沿って点灯する街路灯も、どれ一つとして消えていたりはいらない。

その感慨はやがて都心部の夜景に吸い込まれていく。東京に近づくにつれ、夜景の緻密さに感覚が引き締まってくるようだ。一つ一つのどの灯りも、しっかりと確かに点灯しており、切れたり明滅したりはしていない。確実に揺るぎなく灯っている。そんな灯りが集合して高層ビルとなり、果てしない奥行きの中に連なって夥しい光の堆積をなす。

今の東京の夜景は、世界で一番美しいかもしれない。そういう感想を漏らすと、異論を漏らす人は少なからずいる。夜景はやっぱりムンバイですとか、香港のヴィクトリアピークから見下ろす夜景にはかなわないなどと、②うるさ方の意見は百出するけれども、同意してくれる人は案外と少ない。やはり、思い過ごしかもしれないと思いはじめていた矢先、都市をテーマとしたテレビのドキュメンタリー番組で、世界の空を飛び回るパイロットたちの言葉が紹介されていた。

「いま、上空から眺めて一番きれいな夜景は東京」

世界の夜景を機上から眺め続けている人々の意見だけに説得力がある。まさに③我が意を得た思いがした。世界広しといえども、東京ほど広大な広がりを持つ都市はないし、信頼感ある一つ一つの灯りがそういう規模で結集しているわけである。このあたりに僕はひとつの確信を持つ。

掃除をする人も、工事をする人も、料理をする人も、灯りを管理する人も、すべて丁寧に篤実に仕事をしている。あえて言葉にするなら「繊細」、「丁寧」、「緻密」、「簡潔」。そんな価値観が根底にある。日本とはそういう国である。

これは海外では簡単に手に入らない価値観である。④パリでも、ミラノでも、ロンドンでも、たとえば展覧会の会場ひとつ日本並みの完成度で作ろうとするなら、その骨折りは並大抵ではない。基本的に何かをよりよく丁寧にやろうという意識が希薄である。労働者は時間がくれば作業をやめる。効率や品質を向上させようという意欲よりもマイペースを貫く個の尊厳が仕事に優先するとも言える。それを前提に、管理する側がほどよく制御して仕事を進めていく。確かにヨーロッパには職人気質というものが存在するが、日常の掃除や、展示会場の設営などは、職人気質の及ぶ範囲ではないのかもしれない。さらに言えば、こうした普通の環境を丁寧にしつらえる意識は作業をしている当人たちの問題のみならず、その環境を共有する一般の人々の意識のレベルにも繋がっているような気がする。特別な職人のリヨウイキだけに⑤高邁な意識を持ち込むのではなく、ありふれた日常空間の始末をきちんとすることや、それをひとつの常識として社会全体で⑥暗黙裡に共有すること。美意識とはそのような文化のありようではないか。

もの作りに必要な資源とはまさにこの「美意識」ではないかと僕は最近思い始めている。これは決して比喩やたとえではない。ものの作り手にも、生み出されたものを喜ぶ受け手にも共有される感受性があるからこそ、ものはその文化の中で育まれ成長する。まさに美意識こそ、ものの作りを継続していくための⑦ブダンの資源である。しかし一般的にはそう思われていない。資源と言え、まずは物質的な天然資源のことを指す。

日本は天然資源に恵まれないので、工業製品を生み出すために高度な「技術」を磨いて来たと言われる。戦後の高度経済成長は、そのような⑧コウズでもの作りを進めてきた成果である。世界はそう認識しているし、日本人もそう思ってきた。戦後の日本が得意とした工業生産は「規格大量生産」、つまり均一にたくさん製品を作ることとをきわめて安定した水準で達成することであった。また、製品を小型化する凝縮力のようなものがそこに働いて、日本の工業製品の優位をより鮮明に示すことに成功した。日本の生産技術は、量を前提とした品質と、緻密さや凝縮性を工業製品として体现した結果、世界からの高い信用を獲得したのだ。

しかしながら、ここで言う「技術」とは、言い換えれば繊細、丁寧、緻密、簡潔にもの作りを遂行することであり、それは感覚資源が適切に作用した結果、獲得できた技の「Dセンレン」である。つまり、今日において空港の床が清潔に磨きあげられていたり、都市の夜景をなす光の一つ一つが確実に光を放つことの背景にある同じ感受性が、規格大量生産においても働いていたと考えられる。高度な生産技術やハイテクノロジーを走らせる技術の、まさに先端を作る資源が美意識であるという根拠はここにある。

⑤ 日本は石油や鉄鉱石のような天然資源に乏しい。これは事実で、この事実が歴史の重要な局面でこの国の方針に大きく影響し、第二次大戦に日本が歩みを進めてしまった要因のひとつもここにある。しかし、今日においては、天然資源の確保に※汲々としてきたことがむしろプラスに転じはじめている。もしも日本に石油が豊富に湧き出していたら、おそらくは環境や省エネルギーに対する意識は今日ほどには高まっていなかったはずだ。周囲を海に囲まれ、その大半が山であるという恵まれた自然も、湧き出す石油や排ガスによって後戻りできないほどにぼろぼろに汚染されていたかもしれないし、地球「E」の排出量規制について、京都で国際会議を主宰する主体性も持ち得ていなかっただろう。むしろ、日本の石油消費や二酸化炭素の排出を抑制すべく、中国やアメリカが必死で説得するような事態を迎えていたかもしれない。マネーという富はもっと巨大にこの国に蓄えられ、医療も、教育も、通信も、全て無料で国が提供する裕福な国になっていたかもしれないが、その豊かさは、やがて訪れる次の時代に対応できず、悲惨な衰退を運命づけられていたかもしれない。

幸いなことに、日本には天然資源がない。そしてこの国を繁栄させてきた資源は別のところにある。それは繊細、丁寧、緻密、簡潔にものや環境をしつらえる知恵であり感性である。天然資源は今日、その流動性が保障されている世界においては買うことができる。オーストラリアのアルミニウムも、ロシアの石油も、お金を払えば買えるのだ。しかし文化の根底で育まれてきた感覚資源はお金で買うことは出来ない。⑥ 求められても輸出できない価値なのである。

(原研哉の文章より)

※ ムンバイ——インドにある地名。

篤実——誠実で、相手の立場を考える気持ち強い様子。

高邁——高い理想を追求する様子。

暗黙裡——暗黙のうちに、ということ。

汲々と——そのことをするのに精一杯な様子。

問一 傍線部①「この感覚は持続する」とあるが、「この感覚」とはいつ、どのように感じるものか。四十字以内で説明しなさい。

問二 傍線部②「うるさ方の意見」、③「我が意を得た思い」のここでの意味として、次の中から最も適切なものを選び、符号をそれぞれ書きなさい。

- ②
- イ 独自の見解から筆者の考えに口出しするもの。
 - ロ 大声で自分の主張をおしつけようとするもの。
 - ハ 様々な例を挙げて議論を深めようとするもの。
 - ニ 同様の意見を何度もくり返し述べ立てるもの。
 - ホ みなで協力し確かな結論を導こうとするもの。
- ③
- イ 自分にはほこらしいことだ、という思い。
 - ロ 自分勝手な思い込みである、という思い。
 - ハ 自分の考えていたとおりだ、という思い。
 - ニ 自分には受け入れられない、という思い。
 - ホ 自分だからこそ考えついた、という思い。

問三 傍線部④「パリでも、ミラノでも、ロンドンでも、たとえば展覧会の会場ひとつ日本並みの完成度で作ろうとするなら、その骨折りは並大抵ではない」とあるが、ヨーロッパでは「日本並みの完成度で」作ることがむずかしいのはどうしてか。日本とヨーロッパの違いが明らかになるようにその理由を百二十字以上百四十字以内で説明しなさい。

問四 傍線部⑤「日本は石油や鉄鉱石のような天然資源に乏しい」とあるが、このことは現在の日本人にどのような状態をもたらしているか。筆者は考えているか。簡潔に説明しなさい。

問五 傍線部⑥「求められても輸出できない価値なのである」とあるが、ここで「求められても輸出できない価値」と考えられているものは何か。次の中から適切なものを二つ選び、符号を書きなさい。

- イ 高揚感 ロ 説得力 ハ 信頼感 ニ 美意識
- ホ 天然資源 ヘ 生産技術 ト 流動性 チ 感覚資源

問六 傍線部A～Eのカタカナの語を漢字に改めなさい。

(五十点)

《二》次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のある問題は、句読点も一字に数えます。)

お風呂に入っていると、急に息子が言った。

「①おぼれ大会っていうのがあったら、のび太も一番になれるのにね……」。『ドラえもん』の主人公のび太のことを、息子は何かと気にかけていて、よくこういう発言をする。「オンチ大会なら、ジャイアンが優勝だね」と私も提案してみるのが、これはすぐに却下。

「だめだよー、ジャイアンは自分がオンチって知らないんだから。レコーダーに録音してじーんってしてるんだよ。おかあさん、オンチなんて言ったら、ぼこぼこにされて首しめられるよ!」。

息子は、一日の何分の一かを、のび太やドラえもんと一緒に過ごしている。朝起きると、いきなり『ドラえもん』。幼稚園から帰ってくると、また『ドラえもん』。夕飯が終われば、食後の一服のように『ドラえもん』を手にとっている。

②我が家にあるコミック三十数冊は、私のいとこのあいだで代々受け継がれてきたものだ。アキラくん、けんちゃん、あつちゃん、タカシくん……そして息子という具合。もらった時にはボロボロで、ほのかにカビくさくさであったが、息子には宝の山だった。

「集中!」という表情で、息をするのを忘れているんじゃないかと心配になるぐらい固まって読んでいるが、時にはニヤニヤしたり、ぐふぐふ笑ったり、眉間にシワを寄せたりしている(これはたぶん、のび太がいじめられているところ)。「さよならドラえもん」という話を読んだときには、涙をぼろぼろこぼして泣いていた。悔しいけれど、私が毎晩読んでやる絵本でも、これほどの反応はない。

物語に没頭し、③登場人物に感情移入するという初めての経験を、ドラえもんは持つてきてくれた。『ドラえもん』を読んでいるあいだは、その世界の住人になりきっている。読み終わったあとでも、鏡の世界に入ろうとして、頭をぶつけたりしている。

そして、泳げないのび太のことを思って、「おぼれ大会」なんていうのを考えてしまうほど、息子はのび太最良だ。主人公が、なんでもできるスーパーマンではなく、この「のび太」だからいいのだろうか、と思う。助けてくれるドラえもんとて、決してデキのいいロボットではないという設定だ。だから子どもは、親しみを感じるし、一緒になってハラハラもするし、うまくいけば喜びもひとしお、ということになるのだろう。

母にとっては、今や『ドラえもん』そのものがひみつ道具だ。買い物や外食のとき、これさえ出せば、息子はびたっと静かになってくれる。便利なこと、このうえない。

が、実は④ちよつと心配な面もあった。こんなにのび太に肩入れしてしまつては、「勉強は、つまらない」「テストは、むずかしい」「宿題は、イヤイヤやるもの」という発想が、刷り込まれてしまうのではないだろうか。学校に行く前から、そんな先入観を持ってしまうては、子どもにとってマイナスなのではないだろうか、と(少数派かもしれないが、私自身は、ものすごく勉強が好きな子どもだった)。

しかし、それも杞憂に終わりそう。

「のび太は勉強のとき、どうしても、なまけごろが出るんだ。でも一年に二、三回反省して、ひとみが輝くんだよ!」なんてことを嬉しそうに言っている。⑤反面教師と言つては言い過ぎだが、子ども心に、なまけるのはよくないというところが、わかっているようだ。そのあたりの伝え方が、『ドラえもん』は実にうまいと思う。

いやそれどころか、学習という点からしても、オマケがあったと言うべきだ。『ドラえもん』を読みたい一心で、息子はカタカナをマスターしたし、ルビのおかげで、漢字も相当読めるようになってしまったのだから。

※杞憂——心配しないいいことを心配すること。とりこし苦労。

(俵万智「息子の友だち、ドラえもん」より)

問一 傍線部①「おぼれ大会っていうのがあったら、のび太も一番になれるのにね……」とあるが、どうしてそのような言ったと筆者は考えているか。次の中から最も適切なものを選び、符号を書きなさい。

イ 息子は、のび太が現実にはない大会でしか優勝しないと思っていて、のび太の勝てそうな種目を考えたから。
ロ 息子は、水泳大会でおぼれかけたのび太が描かれていた場面を思い出して、もうこれしかないと思ったから。
ハ 息子は、のび太がいつもジャイアンに負けてばかりだといやで、何か勝てるものはないかと探していたから。
ニ 息子は、のび太のことを何かと気にかけていて、泳げないのび太のことを思うほど、ひいきにしているから。
ホ 息子は、『ドラえもん』に出てくるのび太のことを心配し、ドラえもん抜きで勝てる種目を考えているから。

問二 傍線部②「我が家にあるコミック三十数冊」は、「息子」、「私」にとってどういうものかと言っているか。本文中からそれぞれ五字以内で抜き出して書きなさい。

問三 傍線部③「登場人物に感情移入する」とあるが、『ドラえもん』を読むと「感情移入する」状態になるのはどうしてだと筆者は思っているか。説明しなさい。

問四 傍線部④「ちよつと心配な面」とあるが、どのようなことを心配しているのか、五十字以内で説明しなさい。

問五 傍線部⑤「反面教師」とあるが、「誰がどうであること」を表現したものか、八十字以内で具体的に説明しなさい。

〈三十五点〉

《三》次のⅠ・Ⅱの問いに答えなさい。

Ⅰ 次の①～⑩の傍線部のカタカナの語を漢字に改めなさい。

○ 新しい路線に①シユウコウした機体の状態を管理し、調整する仕事をしているが、この路線は②サイサンが取れるのか心配だ。

○ 彼がいかに③オウボウであるかを、私は④コウフンして語った。

○ 海外ではいろいろな⑤キケンがある。例えば、荷物の管理が未熟だった私は⑥リョケンを盗まれたことがある。

○ 幾つかの線を束ねてつないでいるこの⑦ソウチを外すと、この車は⑧ケイテキが鳴らなくなる。

○ 妻の⑨カンゴのために⑩ジニンする市長のニュースを見た。何を人生の中で重んじるかを取捨選択することも大切なことだと思う。

Ⅱ 次の⑪～⑮において、下段は上段の語句の意味を示している。空欄に当てはまる漢字を、それぞれ記しなさい。

⑪ ☐ に衣を着せぬ Ⅱ 思っていることを率直に言うこと。

⑫ 身を ☐ にする Ⅱ 労苦を嫌がらずに一生懸命働くこと。

⑬ 木で ☐ を括る Ⅱ つつけどんで愛想のないこと。

⑭ 生き ☐ の目を抜く Ⅱ ずる賢いこと。すばやく相手のすきにつけこんで、利をかせぐこと。

⑮ ☐ ☐ に富む Ⅱ 年が若く、将来性があること。

〈十五点〉

